

寧越アフリカ豚熱 (ASF) の拡散防止のための防疫強化対策推進 (2021年5月27日)

<https://www.mafra.go.kr/mafra/293/subview.do?enc=Zm5jdDF8QE8JTJGYmJzJTJGbWFmcmEIMkY2OCUyRjMyNzE4OCUyRmFydGNsVmllldy5kbyUzRmJic0NsU2VxJTNEJTI2cmdzRW5kZGVtdHllM0QIMjZiYnNPcGVuV3JkU2VxJTNEJTI2cGFzc3dvcmQIM0QIMjZzcmNoQ29sdW1uJTNEc2olMjZwYWdlJTNEMiUyNnJnc0JnbmRIU3RyJTNEJTI2cm93JTNEMTAlMjZpc1ZpZXdnW5lJTNEZmFsc2UIMjZzcmNoV3JkU2VxJTNEQVNGJTI2>

1. 発生状況と診断

□アフリカの豚熱病 (ASF) 中央事故収拾本部 (本部長キム・ヒョンス、以下「本部」) は、江原寧越繁殖豚で発生 (21年5月4日) した ASF 拡散ブロックに集中しており、現在までに追加の発生はないと明らかにした。

○繁殖豚における ASF の追加発生を迅速に発見するために5月5日～5月24日までに3回実施した養豚農場 (169戸) *における繁殖豚の臨床精密検査の結果、いずれも異常はなかった。

* (12市郡) 寧越・江陵・三陟・円柱・上等・太白・平昌・横城・丹陽・提川・奉化・永住

□野生イノシシの ASF 陽性オブジェクト (1,421件、5月25日現在) が継続的に確認されており、検出ポイント近く 10km 内に多くの養豚農場 (335戸) が存在しており、野生のイノシシによる汚染地域の拡散を防止し、養豚農場の脆弱要因*をしっかりと管理しなければならない状況である。

*寧越農場は豚舎の外の運動場で豚の放牧や耕作者がイノシシがアクセスする農場近くの畑で作物を栽培しながら農場に出入りするなどがあり、畜産車両アクセスコントロール等も不十分

2. 寧越発生に伴う拡散ブロック

□本部は繁殖豚、アフリカ豚熱病が追加し、野生のイノシシの拡散防止のために、従来よりも強化された防疫対策を進めている。

1) 農場ブロック防疫

□本部は他の地域に伝播遮断のために豚、糞尿の移動の制限、畜産車両制御、農場予察強化と汚染源の流入が可能なすべてのパスの大々的な消毒を実施している。

○ (豚・糞尿制御) 寧越郡と近く、伝播リスクが高い地域 (28の市郡) *の豚及び糞尿は、圏域外との搬出入を徹底的に統制している。

* (江原南部) 寧越、江陵、横城、平昌、円周、太白、三陟、上等、洪川、春川、襄陽 (忠清北道北部) 堤川、丹陽、槐山、音声、曾坪、鎮川、忠州 (慶北部) 永住、奉化、蔚珍、聞慶、醴泉、安東、常駐、城、青松、盈徳

- 圏域外への豚の移動は、臨床検査精密検査で陰性の場合にのみ許可している。

○ (寧越における車両制御) 寧越郡の養豚農場 (5戸) には、寧越郡専用車両 (5台) のみ出入りを可能とし (5月7日～)、農場の入り口に設置された防疫警戒所で車両消毒事項などを徹底的に点検している。

*車両に取り付けられた GPS を確認して、車両の他の地域に移動を管制 (検査本部)

- (農場予察強化) 寧越など 12 の市郡の養豚農場 (169 戸) は、毎日電話予察、豚の出荷前の母豚全数精密検査など強化された予察システムを維持する。
 - (汚染源の集中消毒) 広域防除機・消毒車など 125*を投入、イノシシ発生地域汚染源の拡散防止のために、付近の道路・農場周辺など広範囲な地域を集中的な消毒の実施。
 - *広域防除機 5、共同防除団 77、群除毒車 3、散水車 4、市郡防疫車 36
 - 農場のブロック防疫施設の強化、母豚集中防疫管理と ASF のリスク警戒心を高めること通じて農場単位の自律防疫を強化していく計画である。
 - (施設強化) 寧越など隣接 12 市郡農場 (169 号) は、畜産車両の農場内進入制御設備を補完 (~5 月 19 日) し、強化された重点防疫施設*を迅速に設置できるようにする計画である (~6 月)。
 - * (8 大重点防疫施設) ①外部フェンス、②内部フェンス、③防疫室④前室、⑤入・出荷台、⑥防鳥・防虫ネット、⑦死体保管設備、⑧物品搬入施設
 - フェンス、防鳥ネットなど防疫施設の設置条件などを点検 (郡、検疫本部) で、危険地域入山禁止など防疫上の注意を集中指導する。
 - (母豚における防疫管理) 部外者の母豚舎出入りと母豚舎施設の工事禁止 (必要に応じて市郡に事前申告した後、消毒などの管理) 等の強化された母豚舎防疫管理の推進中。
 - 国境地域母豚の屠殺場 (鉄原など 5 ヶ所) は、母豚及び肥育豚の係留場所・時間を区分し、と殺前予察強化及び屠畜場洗浄・消毒や車両の消毒等の作業場管理についても徹底中。
 - 寧越隣接地域母豚と畜場 (陰城、忠州) においても ASF 発生頻度が高い*母豚を先制的にと畜場防疫管理の強化を推進する計画である。
 - *これまで母豚・肥育豚のように肥育発生農場の 15 戸中 13 戸は母豚のみ、1 戸は肥育豚でのみ発生、残りの 1 戸は母豚・肥育豚の両方が発生確認された
 - (ASF 危険注意報発令) 全国養豚農場に「ASF 危険注意報」を発令 (5 月 7 日) し、農家の警戒心を維持するようにし、防疫上の注意*を継続的に指導・広報する計画である。
 - *入山・放牧・青刈飼料の給与禁止、営農自制、母豚舎消毒、手洗いや長靴履き替え、農場周辺生石灰塗布と祝辞内外毎日消毒等
 - 本部自治体。関係機関団体ホームページ、電話、文字や SNS などの広報手段を総動員、「農場防疫上の注意」を集中的に推進する。
 - 養豚協会は、会員農家に放牧、入山禁止及び ASF 発生地域産飼料の給与禁止の行政命令及び防疫上の注意を促し、協会支部のタントッパン (動衛課注: SNS サービス (カカオトーク) のグループトーク部屋)、バンド (動衛課注: SNS (BAND) : グループトークサービスの一つ) などを通じて遮断防疫を互いに奨励する。
- 2) 野生イノシシ拡散ブロック
- アフリカの豚熱病の南漢江南下と白頭大幹を經由した忠清・慶北地域での拡散防止のために、野生イノシシに防疫管理にも力を集中する。
 - (フェンス) 道路など既存のマークを使用して、導入済みの阻止フェンス (堤川~寧越区間 15km) を延長し、寧越周辺に設置したイノシシ阻止フェンスを点検・補強して脆弱区間のアクセス阻止施設*を設置する。

- *橋、交差点、陸橋、生態通路などブロック脆弱区間に忌避剤、センサー型警告灯を設置
- 4段階広域フェンス（麟蹄郡～江陵市）は、現場管理人（10人）が常時パトロールしながら脆弱区間を集中管理して、調査人材を活用したフェンス点検も並行して実施する。
- （取得）南漢江～東江一帯重点取得地域（7）についてイノシシ生息分布状況の把握と継続的な捕獲を実施（'21年6月～）する計画である。
- *（6～7月）の忠州、提川、丹陽地域、（7～8月）の楊平、苦瓜、上等地域
- 国立公園内と隣接地域でも捕獲枠（70）と忌避剤（300）を設置して公園内拡散を遮断する。
- （調査）弊社体の調査人材を常時投入*して寧越発生地点周辺の調査を強化し、国立公園は、国立公園公団人材**を活用して、公園内ASF状況の監視を強化する。
- *環境省の調査チーム360人、自治体の調査人材郡別各20人
- **公園公団自体人材：雪岳山30人、五台山。雉岳山10人
- また、国立野生動物の疾病管理員は、周辺に現場対応センターを設置・運営（21年5月～）し、迅速な対応システムを構築する。

3 .要請事項

- キム・ヒョンス本部部長は養豚農場。畜産施設の関係者が「農場の母豚管理の強化とともに農場・畜産施設の消毒と祝辞出し入れの際に手洗い・長靴履き替えなどの基本防疫上の注意を徹底守らなければならない」と強調した。
- 「環境部などの関係省庁が協力して、野生イノシシの西進。南下を防ぐための阻止フェンスの点検並びにイノシシ捕獲及び遮蔽物の調査を入念に実施すること」を要請した。
- また、「京畿・江原の危険地域*を出入りする農家及び山歩き客に対しても豚の繁殖農場等の畜産施設訪問を自制し、ASF 拡散防止に協力すること」を要請した。
- *坡州、漣川、抱川、加平、鉄原、華川、春川、楊口、麟蹄、古城、寧越、襄陽、江陵、洪川

